

2013年12月19日

植物油を原料としたカーボンブラックの量産技術確立について

三菱化学株式会社

三菱化学株式会社（本社：東京都千代田区、社長：石塚 博昭）は、植物油からカーボンブラックを高収率で量産する技術を確立しました。

カーボンブラックは現在、クレオソート油・エチレン残渣油など、芳香族成分（アントラセン等）を豊富に含んだ石炭系・石油系重質油を原料として量産されています。

これに対し、ヒマシ油・松やに油などの植物油は、芳香族成分の含有量が少ないため、従来の製法ではカーボンブラックを量産できませんでした。

当社は、石炭・石油系の鉱物資源から植物由来の非枯渇資源への原料転換を図るために、独自に培ってきた高機能カーボンブラックの製造技術を応用することで、植物油を原料としたカーボンブラックの量産に成功しました。

また、本製品を使用したゴム、樹脂コンパウンド等の配合物は加工性に優れるという特徴を持っています。

2010年12月から黒崎事業所で試験生産を開始し、2013年7月から一部ユーザーへの供給を開始しています。

今後も当社は、市場の伸長を見極めながら、生産体制の拡充を検討してまいります。

以上

【カーボンブラックとは】

炭素主体の微粒子のこと。油やガスを不完全燃焼することで、様々な特性をコントロールして製造される。すぐれたゴム補強剤として、主にタイヤ用として大量に使用されている。

また黒色顔料として、印刷インキ・樹脂着色・塗料・トナーなどの分野や、導電性付与剤として帯電防止フィルム、繊維などに使用されている。

【本件に関するお問い合わせ先】

(株)三菱ケミカルホールディングス 広報・IR室

TEL：03-6748-7140